

日本共産党  
取手市委員会が  
主催

# 震災後の生活・地域の 再建めざす市民の集い



29日午後、雨が降る中、取手市立福祉会館で日本共産党取手市委員会が主催した集いに51人の市民が参加、大震災と今後の街づくりについて活発な議論が行われました。集いは、冒頭、日本共産党取手市会議員団を代表して加増みつ子議員が、パワーポイントを活用し、震災後の取手市の対応と党議員団・党支部の取り組みについて報告しました。

助言者として弁護士、建築士、税金の専門家、市会議員が出席。被害を実体験した市民や、相談を受けた参加者から出された多岐にわたる質問に、助言者はそれぞれ専門家の立場で応じました。

集いの中で、被災後の支援制度について

特に不十分な住宅改修への支援制度を拡充することの必要性が確認されました。

最後に主催者は、「集いに出されたご意見は、6月1日から始まる市議会にいかしたい。そして、災害に強い街づくりに力を合わせましょう」と結びました。

## 5月26日までの取手市内の り災証明書の発行状況

- り災証明申請 2521件
- 全壊 16件
- 大規模半壊 24件
- 半壊 190件
- 一部損壊 1700件
- 建物以外の損壊 431件
- …加増議員の報告から

## 会場に出された主な質問から

- 「UR賃貸住宅で生活する避難住民の支援制度の改善を」
- 「避難所となる学校の耐震化の状況はどうなっているの」
- 「雑損控除・固定資産税など災害による税の減免制度は」
- 「液状化で陥没・亀裂が入った道路と、堤防の改修状況は」
- 「所有者不在の危険な家屋やブロック塀の2次災害を防止する法的な対応など、どうすればよいのか」
- 被害が最も多い「家屋の屋根の修復のための適正な費用相場は…法外な金額を請求する業者もあると聞くが」
- 「液状化による家屋に対する再建支援制度は」
- 「原発事故、特に放射線量のしっかりした測定体制が必要では」…等



## 明るい取手

2011年6月5日(日)

発行: 日本共産党取手市委員会  
取手市井野3-19-6 TEL.72-7816  
<http://toride.jcpweb.net>

取手市委員会 検索

◆日本共産党の見解を紹介します。

生活のお困りごとなどお気軽にご相談を

- 高木晶市委員長/TEL74-2004
- 林 みやこ市議/TEL78-8481
- 遠山ちえ子市議/TEL83-8290
- 加増みつ子市議/TEL74-8154
- 野口りえ子市議/TEL78-2828
- 鈴木潔相談室長/TEL74-8160

メール [jcp.toride@blue.ocn.ne.jp](mailto:jcp.toride@blue.ocn.ne.jp)

## 6月定例 取手市議会始まる

6月定例市議会が、  
6月1からはじまりました。  
会期は16日(予定)まで。

取手駅西口地区開発`新構想、

## 住民不在、早くも“破たん”…

「ウェルネス・タウン」  
関連補正予算案取り下げ

関係記事は裏面に

4人連続  
国交省から  
“天下り”

## 副市長決まる

国会では「天下り禁止」を叫ぶ  
公明・民主・みんなの党も賛成



6月1日から始まった市議会。1日目の本会議で、「副市長の選任に関する同意について」の審議がなされました。今回の副市長選任は、国土交通省からの賞名功二(ぬきなこうじ)氏(43歳)です。これは助役時代を含め、4人連続の国交省からの“天下り人事”となるものです。

このところ、副市長は国から、教育長は県からという人事が横行しています。これ

では、地方自体の自治権を自ら放棄するものです。取手市のことは取手市みずから自主的に最もふさわしい人を選ぶことがのぞまれます。

しかしながら、市議会での審議、採決の結果は、賛成16、反対11となり、藤井市長選任の賞名功二氏の副市長が同意されました。

反対した議員/林みやこ、遠山ちえ子、加増みつ子、野口りえ子、齊藤勝久、佐藤清、赤羽直一、澤部利勝、朝比奈通子、小泉真理子、飯島悠介の各市議

賛成した議員/貫井徹、齋藤久代、阿部洋子、染谷正博、佐藤隆治、小嶋吉浩、吉田宏、中村修、結城繁、入江洋一、金澤克仁、倉持光男、平由子、山野井隆、川又貞夫、石井めぐみの各市議

順不同

## 一人でも悩まずに

生活相談・労働相談/電話72-7816

## 弁護士無料法律相談

ご相談は事前に連絡を/電話72-7816  
6月25日(土)午後1時30分 取手市立福祉会館

# 取手駅西口地区開発 土地利用計画構想(案)

市公報(6月1日号)を見て  
びっくりした!

「こんな時、税金のムダづかい、借金を増やす箱モノ計画はイラナイ」の声、声…

「芸術の杜」破たんの反省もなく、「新構想」では…

ウェルネス・タウン取手市の創造

# 同じ過ちを繰り返す駅前開発計画 住民不在、早くも“破たん”…



取手市は、4月に行われた市長選挙後初めての定例市議会(6月1日開会)前の30日、市議会全員協議会で取手駅西口前の土地利用計画案を発表しました。事前に配布された6月市議会議案では、一般会計補正とともに、取手駅西口都市整備事業特別会計の補正予算が出されています。西口特別会計増額補正額は8639万円。そのほとんどが、「ウェルネス・タウン(プラザ)」関連の予算案となっていました。これまで進めてきた

「芸術の杜」創造プロジェクト構想は破たんしたのに「止めるとも進めるとも、言わずに、新たな構想」を発表。同じ過ちを繰り返す市民不在の駅前開発計画では…などとの批判の声があがっていました。

藤井信吾市長は、議会開会当日(6月1日)の朝、議会開会前にこの補正予算を取り下げました。

## 市議会上程前に「ウェルネス・タウン(プラザ)」関連補正予算案取り下げ

藤井市長が取り下げた  
ウェルネス・タウン(プラザ)関連  
補正予算8585万円

- ①(仮称)ウェルネスプラザ整備計画策定調査事業費/整備計画策定調査委託費 7,350,000円
- ②歩行者デッキ実施設計委託費 31,500,000円(特例債2990万円)
- ③西口自転車駐車場実施設計委託費 12,000,000円(特例債1140万円)
- ④C街区造成工事事業費 35,000,000円



決めてから  
市民の意見(パブリックコメント)を  
聞くの?

6月議会の開会を前に、議案の事前説明を受けた議員の間から「3月議会では、計画に対する質問にも一切答えず、報告も全くなかった」「パブリックコメントで市民の意見を把握するというが、決めてからでは」、突然の補正予算の計上(議会開会前に取り下げ)に「市民と議会の軽視だ」と議員の間からも批判の声が上がっています。

今、借金(特例債)しなければ  
間に合わない?…と言って

取手市は、「合併の支援制度は平成26年度が期限、合併特例債など活用するには急がなければ」等と、これまでの「芸術の杜」創造プロジェクト」失敗の反省もなく、計画先にありきで見切り発車の方針です。合併特例債といえども、借金を増やすことには変わりありません。

意味がないと言っていた  
「東西自由通路計画」が再燃

昨年まで藤井市長は、「取手駅東西自

由通路整備計画」について、「自由通路」だけでは意味がないと事業費倍増(17億円→35億円)計画の「橋上駅舎」との一体整備を行う方針を進め失敗しました。「取手駅に2本目の連絡通路は税金の無駄づかい」、「東口改札内のバリアフリー化を」との市民世論が広がり、JR東日本も「駅舎建設は見合わせる」こととなり、計画は凍結していました。ところが「ウェルネスプラザ」の計画と合わせ、駅西口の歩行者デッキを北側に延伸、東西自由通路の整備を行うとしています。

失敗続きで  
際限のない無駄づかい

平成5年にスタートした「取手駅西口北地区開発」は、平成22年度まで143億円(事務費込)の税金をつぎ込みました。

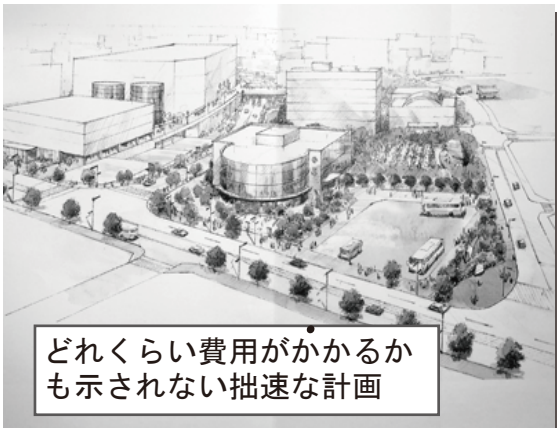
区画整理に加え、計画された「PFI方式による公共駐車場ビル」「市民情報プラザ」「芸術館」「自由通路」等箱物建設はことごとく失敗してきました。それに使った調査委託料などの税金の無駄づかいは図り知れません。

市民ニーズのない新たな計画に、見通しもなく税金を投入する補正予算は、6月

議会前に取り下げましたが、「計画」そのものをきっぱり取り下げることが求められています。



▲破たんした駅前開発計画



▲新計画の「ウェルネス・タウン」

## 「東急」ビルの再開を

昨年8月の東急ストア閉鎖以来、「駅前が買い物に不便で、夜は暗く寂しいところになってしまった」「早く再オープンしてにぎわいを」と市民の切実な声が上がっています。

取手市が施工した東急ビルは空きビルのまま、新たな箱もの「ウェルネス・タウンプラザ」は、市民の望む計画でしょうか?

日本共産党は引き続き、市民ニーズのない過大開発に反対するとともに、行政も含めた関係者が力を合わせたとりくみで、商業中心の「東急ビル」早期オープンをめざし、力をつくします。